


企画事業 「ボランティアに関する事業」

事業名	ボランティアがつくるワクワクキャンプ	
実施期	平成22年7月10日(土)～11日(日)	
担当者	企画指導専門職 北岡 哲治	

I 事業の趣旨

小・中学生と大学生がキャンプ等の自然体験活動を通して、異年齢交流を図り、ボランティアが主体的・実践的に事業を企画・運営することを通してコミュニケーション力、調整力、責任感や社会への貢献意識、自己肯定感を培う。

II 事業の概要

1 事業の目的

大学生を主体としたボランティアが、参加者に対し、異年齢交流を通じたボランティア活動の魅力や魅力を如何に伝えられるか、また、これまで実践してきたボランティア活動が如何なるものか、自問自答しながらステップアップしていくことができる事業として位置づけ、青少年が自分の可能性に気づき、社会の仕組みや課題を知るという様な人格的、社会的成長を促す事業となるよう期待している。

2 参加対象及び募集人員

小学生5・6年生・・・50名
中学生・・・30名
法人ボランティア・・・15名

3 参加状況

小学生5・6年生・・・17名
中学生・・・15名
法人ボランティア・・・14名

4 実施上の留意事項

小学生・中学生の参加ということから、安全面への配慮を重点的に行った。班付きのボランティアスタッフには、班員の健康状況の把握、健康観察、食事の状況等を観察してもらうようにした。特に、夏の暑さ対策として、熱中症の予防という観点から、水分補給には万全の準備をした。水出しで簡単に作れる麦茶ではなく一度沸かしてから麦茶を準備した。また、海洋研修では、体力もかなり消耗するので、スポーツドリンクやあめ玉・黒砂糖等を準備した。

事前踏査での安全確認、緊急避難用のバンガローの清掃（雨天時の緊急避難対応）、海上に出るときの安全監視体制（水上バイク、船舶）等を行った。

また、荒天時は海洋研修ができないので、すぐ対応できるように詳細な代案の準備が必要になる。

5 活動のようす

1日目 ふれ合いレク、テント設営、火おこし体験、野外炊飯、キャンプファイヤー



班別活動で緊張をほぐしながら、ボランティアとレクリエーションを楽しむ参加者。

《ふれあいレクリエーション》



《 班で協力してテント設営 》



《 初めての火おこし体験 》



《 砂浜でのボンファイヤー 》



《 さあ、おいしいカレーを作ろう。 》

2日目 参加者全員で撤収作業、片付け、海洋研修事業の総括を行う。



《 各班男女毎に、みんなで協力してテント撤収を行っているところ。 》



《 夜の楽しみ、キャンプファイヤーで突如現れた琉神マブヤー 》



《 大型カヌーに挑戦 》



《 スーパーフロートでさんごに出会う 》



《 班毎にふりかえりを行っている様子 》



《 オープンカヤックで大海原を優雅に散歩? 》



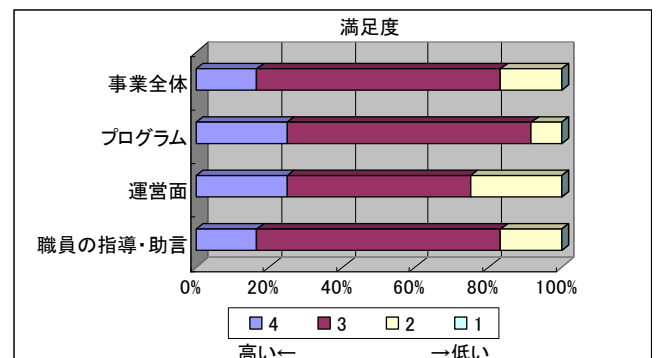
《 最後にみんなで思い出の一枚 》



《 使った機材はきれいにあとかたづけ 》

6 アンケート結果

アンケートの結果から、「満足」「おおむね満足」を含めると全て75%以上の満足度となった。参加者の自由記述から、「楽しかった」という肯定的な意見と「ボランティアと子どもとのコミュニケーションの難しさ」や、「団体行動を指導することは大変だと思った」という意見も寄せられ、ボランティア活動に示唆を与える意見も挙げられた。



《良かった点》

〈小学生・中学生〉

- カヌーや炊飯など普段できない貴重な経験ができた。火おこしとか初めて体験することもあったからいいと思った。
- 夜に波の音を聞くのも今までにはない音が聞こえてきて楽しかった。
- ボランティアの人たちはみんなおもしろかったし優しく教えてくれたりして良かった。
- いろんなゲームが楽しかった。おもしろいゲームをたくさんやって欲しい。
- 野外炊飯やキャンプファイヤー、レク、海で泳いだこと、とても楽しくておもしろかったのでまた来たいと思った。

〈ボランティアの声〉

- 小・中学生との交流で、とてもいい経験をさせていただいた。今後は、交流の家側と状況をもっとしっかり把握しあって計画を立てていけたらいいと感じた。
- 子供達に教えるより、学ばされることが多かった。(火おこしの物理や虫の取り方など)
- 子供達内の団体行動や、自己主張の場などを見て、教員免許の取得を目指す自分には、とても良い勉強になった。また、個性の強い子達と接し方など勉強できた。
- 受け入れるまで時間がかかったが、子供達のいい面をみつける事ができてよかった。

《改善すべき点》

〈小学生・中学生〉

- レクでスポーツなどをした方が楽しいと思う。
- 自然がいっぱいなので自然を使った楽しい遊びをいっぱいやって欲しかった。
- 2泊3日にして海洋研修ともう一つメインを増やした方がいいと思う。
- 楽しかったけど想像していたものと違った。自然がいっぱいなのでもっと自然の楽しい遊びを長い時間やって欲しかった。
- 海で泳ぐ時間をもっと増やして欲しい。
- 海に入る時間が少なかった。

〈ボランティア〉

- 自分達の動きの悪さが原因で、予定通りにいけなくなりそうになったりもした。子供達と触れ合いが満足にできなかった。(偏りがあった)
- 子ども達とのコミュニケーションが初めは少し難しかった。
- 自主的に動いてもらうにはどうしたらいいのかと考えさせられた。
- 団体行動を指導することは大変だと思った。
- もう少し(計画を)練ってもよかった。一部の人が頑張ってる場面もみられたため、満足感は少なかった。
- もう少し準備のための話し合いがしたかった。

Ⅲ 成果と課題

1 事業の成果

本企画はボランティアが中心となり、企画・運営する事業であり、ボランティアのスキルアップをねらいとしている。半数以上が渡嘉敷島ではじめてのボランティアということで不安と戸惑いがあったようであるが、ボランティアの希望者数が例年より多く、連携をとりながら企画運営し、無事に事故やケガなく終了することができてよかった。

また、生活していくには一人ではなく、仲間の大切さそしてコミュニケーションの大切さを実感する機会となっていた。

プログラムの中に班毎に砂浜でのふりかえり活動があり、一日の自分を振り返る時間を設けている。参加者は非日常のなかで、波の音や星や月、虫の声など自然の醍醐味を味わう機会を経験できた。

2 今後の課題

本事業は、これまでもボランティアのスキルアップとしての役割を果たしてきた。今後は内容をさらに充実したものとするために、ボランティアに役割分担から準備まですべて任せて企画運営・事後評価まで、自主的に運営できるよう、綿密な計画と連携をとりながら事業を推進していくことがますます必要となる。

また、昨今自然体験活動における事故が全国で見られるが、絶対に事故を起こさないためにも毎回、計画段階から安全には綿密な計画、確認が求められる。常に油断・慢心・マンネリ化の防止の徹底を図る必要がある。

沖縄本島での事前会議を5回行ったが、参加者が確定した時点で1回は現地(渡嘉敷島)で下見を兼ねた会議を行うことが有意義である。参加するボランティアの意識も高まり、さらに良い企画事業になることであろう。

Ⅳ おわりに

今回の事業は天候に恵まれ全日程計画通りのプログラムを展開することができた。全く雨が降らず、晴天のもとほぼ予定どおり順調にできた。雨天時のプログラムも準備していたが、テント設営、キャンプファイヤー、海洋研修とすべて順調であった。

参加者を見ていても、いきいきとキャンプ生活を楽しんでいた。「海がきれいだった」とか「キャンプファイヤーを初めて経験できた」「キャンプファイヤーの余興(演技)が楽しかった」など満足した様子だった。

小学生・中学生の参加者と大学生のボランティアの成長がみられた1泊2日であった。